



安全・健康ニュース

第32号
2014年/2月

府中市寿町3-2ふれあい会館2F/TEL042-366-2322

事故ゼロを目指すことは永遠のテーマです

澤村 一男

新しい年を迎え早1か月が過ぎましたが、改めまして会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

新たな気持ちで、健康・安全で「事故ゼロ」を目指して就業へとスタートしたいと思います。

安全委員会では、今年も会員の皆様に安全・健康の啓蒙・啓発をするために、よりよい「安全・健康ニュース」をお届けしたいと思っています。

さて、皆様には繰り返し繰り返しこの「安全・健康ニュース」において「加齢に伴い加速する心身機能の低下を自覚し、それを認め、低下を少しでも遅らすために、自分に合った方法で日常生活や現実の就業面で工夫し、毎日継続することが大切です」と訴え続けています。「健康」と「安全」は表裏一体のテーマなのです。

東京全58センターの「平成25年度事故報告状況(上半期)」資料を見ますと、傷害事故のうち、

I. 就業中(64%)の事故が多い職種(上位3職種)と事故の型別は、①除草・草刈は、有害物等との接触が最も多い、②技能(植木)は、墜落・転倒事故が

多い、③屋内清掃は転倒事故が多い、とのことでした。この傾向は、毎年変わっていません。

II. 就業経路途上(34%)において多い事故は、①自転車利用時の事故で、例年同様「自損事故」が多く発生し、運転中に人や物を避けようとしたとき、段差で滑ってバランスを崩した転倒事故が大半を占めています。②歩行中の事故は「自損事故」がほとんどを占め、つまずき、すべりによる転倒であります。

一方、賠償責任事故の多い職種と事故の内容は、①除草・草刈については、刈払機使用時の飛石事故が半数を占めています。②植木作業については、切った枝によって損傷したり、脚立類を移動させるときの事故。③家事援助は、ガラスや陶磁器類の破損が多くを占めています。

当センターでは、上半期の傷害事故は4件、賠償事故は4件起こっています。

日頃から十分な注意と余裕を持って行動していれば、事故を防げたのではないのでしょうか。

これから更に寒さも厳しくな

り、冬場は路面の凍結や、慣れない雪によって転倒事故が多発します。

転倒しやすい場所は、横断歩道、人や車両の出入りの多い場所、タイヤ張りの場所、マンホール、段差のある道路等で、踏み固められて滑りやすく、特に、日の当たらない道では十分に注意をしてください。

冬は何かと身体の動きが鈍くなりがちです。準備運動を十分にして身体を温めて行動を起こすことも、忘れずに、心と時間に余裕をもって出かけてください。

また、風邪、インフルエンザ、感染症胃腸炎などの感染症にかかった場合は、肺炎などの合併症を起しやすく、これにより死亡率が高くなるようです。

飛沫感染予防には、人混みにならなく入らないようにし、必ずマスクをしましょう。

接触感染予防には、ウイルスが付着した物に触った手は、石鹸を泡立て、洗いましょう。

十分な睡眠と、バランスの良い食事とリラックスした入浴でこの冬を乗り越えましょう。



安全について!!

安全委員

植木班 藤木 勝幸

●自転車にて

- ①危険と思った体験は、車道から歩道へ乗り上がる時です。段差が2〜3cm以上あると倒れやすいので、斜めに乗り上がるのは危険です。
- ②左側通行していても、前方から右側通行してくる自転車が来る場合があります。大人にも多いですが、社会全般のマナー・ルールとして幼稚園や小学校から教育してもらいたいと思います。(自転車は一生乗れる便利な乗り物ですのぞ)
- ③タイヤの空気圧が頻繁に減ってくる場合は、虫ゴムが



古くなり穴が開いているのが原因であることがあります。出来れば一年に一回取り替えてみましょう。

④重たい荷物(道具)を乗せ、鍵をかけたまま発車しようとして、後輪のスポークが曲がってしまったことがあります。

●植木班にて

毎年1回、1月初めにワークブランチにて脚立等の機材点検整備を行っています。

私達植木班は脚立・梯子を100%信頼し命を預けています。

ですので、開き止めチェーンやフックのヒビ、切断があつてはなりません。

この重責にて整備を行つていきます。

使う側も、安全な角度での使用・チェーンをきちんと張る・脚立を安定した地面に置く・上部を枝もしくは幹を中心に縛るなど、安全に留意して使つていただきたいと思つています。

建設現場では『三大災害(墜落・重機・倒壊)をなくそう』というスローガンを目にしましたし、ヘルメットを着用しない

自転車の乗り方、見直してください



と現場に入れないとのことと、徹底した安全管理をしています。シルバーでも同様に安全第一で就業していただきたいと思います。

自転車事故に気を付けよう！

悲しい事故

安全委員 小場 いぶ子

先日中学生のお子さんが自転車を運転中に横断歩道を渡っている男性に接触し、その男性が間もなく死亡するという事故が起きました。

加害者は「前方不注意で人がいるのに気が付かなかった」と話しているようです。

この事故の結果は、被害者・加害者共に家族が一生背負って行かなければなりません。

あまりにも悲しい事故であり、大変不幸な出来事だと思います。

交通事故のない安全な街を実現するために、事故を一件でも減少させる努力を惜しまず、皆さまとともに活動して

いきたいと思います。

そして、こうした悲惨な事故に遭わないようにしたいものです。

最近の交通事情は、大変厳しい実態であると聞いています。

警察署の指導をいただきながら、効果的な活動に積極的に取り組んでいきたいと思っております。



11月～1月新規事故発生状況

傷害事故

事故発生日時	傷害の内容	事故の概要	作業内容	再発の防止策
11月29日 16時頃 就業中	転倒	清掃作業中、車止めに躓き顔面から転倒した。鼻骨骨折・歯がずれた。	一般家庭 清掃	いつもの慣れた作業であっても油断せず、足元や周囲の状況の一つ一つ確認しながら進めましょう。また、加齢による身体能力の低下を自覚することも大事です。
12月3日 10時頃 就業中	転落	植木剪定作業で脚立から降りる時、二段目からバランスを崩し落下、左腰・右肘・肋骨骨折	植木	脚立での作業には危険が伴います。ヘルメット・安全ベルトや脚立の固定など、用具を正しく使用し、その上で周囲や足元の確認もしっかりしましょう。

「自分には事故は関係ない」と思っていないませんか？
事故は、誰にでも、どんな時でも起こる可能性があります。
事故の実例を確認することでもう一度気を引き締め、
安全就業を心がけましょう。



去る1月24日、ふれあい会館第4会議室において、第16回安全推進大会を開催いたしました。
インストラクターの方々が3名、看護師さんと東京しごと財団職員の方が各1名おいでになり、健康維持に役立つ楽しい運動を指導していただきました。
27名の会員さんにご参加いただき、大変ご好評いただきました。